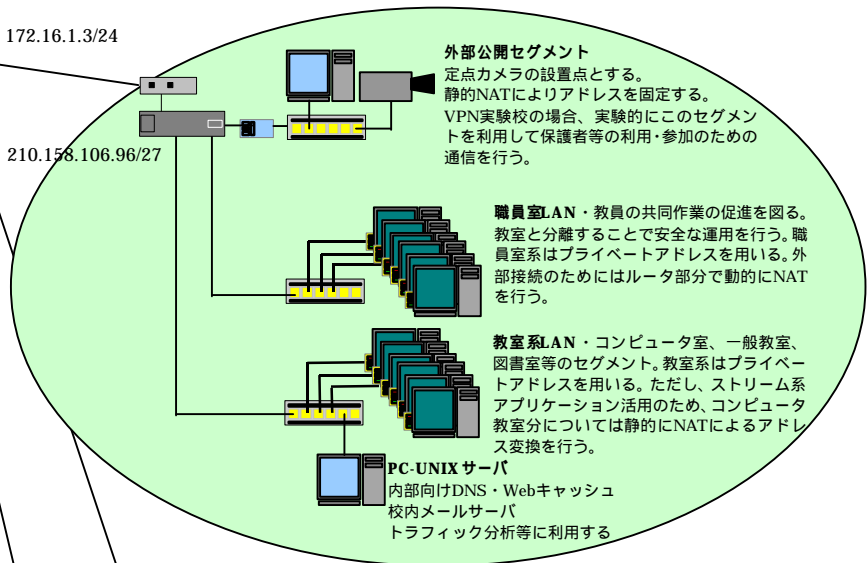
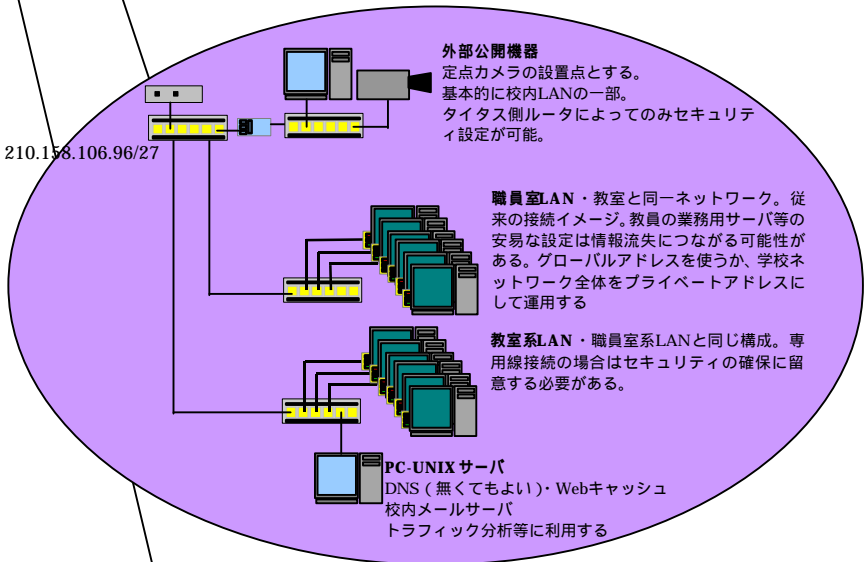


方式1
特徴: 学校内を複数のセグメントに分割する。教育用セグメントと業務系セグメントに分割することによって安全に職員室内のネットワーク利用を促進し、全ての教員の利用参加を促す。
アドレス計画: 学校内についてはプライベートアドレスを用いる。教育系は静的なNATにより外部との通信を行う。業務系については動的なNATを用い、小学校で/27、中学校で/26程度のグローバルアドレスで運用する。



方式2
特徴: 学校内を1つのセグメントに收容する。経路制御は上位側ルータで行い、ブリッジで接続する。単一ネットワークとなるので、職員室を分割することはできない。
アドレス計画: 小学校で/27、中学校で/26程度のグローバルアドレスで運用する。アドレス変換は行わない。
欠点: コストは押さえられるが、校内のトラフィックが上位タイタス側のネットワークへ流れるため、セキュリティが無い。構成の変更毎にタイタス側ルータの設定変更が必要となる。



方式3
特徴: 学校内を1つのセグメントに收容する。タイタスネットワークと分離するためにルータを設置する。安価なデュアルポートルータを用いる。この場合も、単一ネットワークとなるので、職員室を分割することはできない。
アドレス計画: NATによりアドレス変換を行う。小学校で/27、中学校で/26程度のグローバルアドレスで運用する。アドレス変換は行わない。
欠点: コストは押さえられるが、ルータの性能によって、今回の実験目的を果たさない可能性がある。例えばCisco2514程度のルータでは、ポート間の転送能力は1.5MBPS程度であるから、CATVの利点である高速なダウンリンクを処理しきれない可能性がある。

